

第4回日野市子ども・子育て支援会議（要約）

出席委員 19人中3人欠席

欠席委員 原口委員

半澤委員

福田委員

日 時 平成27年1月29日（木） 18:30～20:30

場 所 市役所5階 505会議室

次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) (仮称)新!ひのっ子すくすくプラン素案について

(2) パブリックコメントの意見等について

(3) その他

4 閉会

事務局	1 開会
事務局	2 資料確認 会議次第、資料1. (仮称)新!ひのっ子すくすくプラン(素案)説明会の要旨について、参考資料 パブリックコメント
会長	会長あいさつ
事務局	(仮称)新!ひのっ子すくすくプラン(素案)について、前回の会議終了後、若干の変更を加えた部分を説明。 ・新!ひのっ子すくすくプランの説明をトップに記載。大きく分けて4項目。P1においては、少子化対策の突破口、日野市の強みを活かすという表題のところにまとめている。その下段には、日野市のこれまでの取り組みということで、命題としてやっている3つの戦略をまとめた。 ・P2 ひのっ子すくすくプランとは、子どもが主役。これは前回の会議を受け、委員各位から受けた子どもが主役であるということを明確に表現した。 ・最後、日野市が目指す姿、一貫した子育て支援の継続、スピリットという命題で、これから日野市、今までの部分を継承しながら、これからどうしていくのかということをもとめた。これによってすくすくプランがどういうものなのかというところを見ていただく方にわかっていただくようにしている。 ・P51 こちらも前回の会議において委員各位からご意見をいただいたものを、

事務局で修正を加え、表現させていただいたものになる。キーワードとしては、4つの項目、子育て、親育ち、地域育ち、次世代育ちと分けていた。表現方法として、上から順に書いていったというもので、どうしても順番付けというように見えるというお話があった。それを受けて、順番ではないというところを中心に、表題である子どもが育ち、子どもと育つ、寄り添う地域、溢れる笑顔。幸せというキーワードのもとに四葉のクローバーというものをイメージして、4つに分割させていただいたということで表現を変更させていただいた。

- ・P54 こちらも前回の会議において、第一義的責任は家庭にあるという表現が気になるというお話も多数いただいた。本計画は、子ども子育て支援法に基づく計画である。法律に明記されている文案をそのまま原文として掲載させていただいている。日野市が言っているというよりは、国の法律例規などでこう謳われているという表現方法であるという認識をしていただければと思う。
- ・P129 こちらは、数値の変更というところである。③の子育て短期支援事業（ショートステイ）の量の見込みと確保策の表である。定員数と記載があり、数字は1,095人となっている。前回の数字から実績に基づき変更させていただいた。
- ・P132 上から2番目の表になる。同じく量の見込みと確保策の表の一時預かり保育の欄になる。こちらも前回の数字から13,095人という数字に変更させていただいている。続いてその1個下の表になる。過年度の実績というところの利用人数というところになる。平成25年度、655人となっているが、実績に基づく修正値ということで、確認を再度とったところ、711人とわかったので、最終的にはそうさせていただく。計画の変更点について説明は以上。

委員の主な質問・ご意見等

- ・序章のところの日野市の強みについて謳っているが、日野市の強みとは具体的に何のことを指しているのか。この文章だけではわからない。
- ・P51 基本理念のところだが、順番は特に付けずに、同列のような図になっているということで、以前の資料よりもわかりやすいと思うが、基本理念の最初のところに、家庭（親）の存在がとても重要ですよという言葉が、親育ちのところにもまた重ねて出てきているというところで、復唱されすぎているのではないかと感じた。例えば上部の家庭（親）の存在がとても重要ですよという部分は、例えば家庭、学校、地域社会が連携することが重要ですよとか、下が同列ということになるのであれば、親というだけでなく、そういう形にすべきだと思う。何より気になるのが、家庭（親）というところで、家庭は親であるという規定になるが、この言葉は、親が子どもを育てているケースにおいては、親育ちという言葉や親の支援という言い方は成り立つが、家庭（親）の存在がとても重要ということになると、親がいない子ども、あるいは親に育てられていない子どもはどうなるのかという配慮が足りないと思う。社会には親以外の親族に育てられている子どもも、あるいは児童養護施設、里親に育てられている子どもたちもちろんいるし、少子化にもかかわらずそういう子どもたちが年々増えていっているという現状でもある。もちろん児童養護施設で育てられて

いる子どもたちの親はいるけれど、経済的な理由や病気、虐待などの理由で別れて暮らさなければならないという状況自体を施策でどうにかしようというために、すすすくプランが出ていていると思うが、実際今現在そのような状況に置かれている子どもたちへの視点も大切だと思うので、家庭イコール親という視点は避けるべきだと思う。

・P54 のところで子ども子育て支援法の基本理念の中でも、父母、保護者が子育てにとって大事と書いてあり、親とイコールにしていない。保護者となると、施設、里親の保護者も入るので、少し言い方を変えたほうが良いと思う。家庭は広範囲にわたるものだが、親がいなければすすすく育てないというイメージになってしまう。

・P52 地域育ちというのは、地域で子育てを支える仕組みづくりという言い方だと、地域は親が子育てをするのを支えるというように取られやすい。私もそうってしまった。多分そういう意図だけではないと思うが、私たちは地域で親を通してではなく、直接子どもと関わって子どもの成長を助けていく活動をしているので、地域で子育てを支える仕組みではなく、子育てを子どもの成長に直していただいて、地域で子どもの成長をに変わるとよりわかりやすいと思う。それからすすすくプランの概念図、やはりどうしても入れられてしまっているが、この間の会議でもわかりにくいと指摘があったが、やはりいくら見てもわかりにくい。私自身もいろいろ見直したが、少し誤解を招くと思う。

→P1 日野市の強みがわかりにくい。具体的にどういうことなのか、という趣旨で承った。強みといってもいろいろあるが、個別具体的に表現する方法、そうでない方法。どちらかというとなら後者の日野市の強みとはなんぞやといった時に、これまで日野市が掲げてきた、子育て施策、子育て支援、取り組み全般を指すというイメージで言葉を使った。個別に事業をあげれば多数あるので、その旨ご理解いただきたい。

→P51 家庭（親）という記載が、配慮が欠けるというご趣旨だと思う。おっしゃる通り、この文面では一部配慮が欠けるということで、事務局でも検討のうえ変更させていただく。

→P52 3番の互いに育て合う市の方針1の地域で子育てを支える仕組みづくりの箇所の子育てという表現を、子どもの成長をと変えたほうがより良いのではないかとこのところである。こちら合わせて内部で検討させていただく。加えてその下段の概念図であるが、こちら前回の会議で分かりづらいという意見もいただいたが、分かりやすいというご意見もいただいた。改めていただいたところ踏まえて、内部で再検討させていただく。

・もう一つ家庭（親）の存在が重要ですよという言葉が、上の総論、基本理念のところにも書いてあるということ、これは基本理念が、子育て、親育ち、地域育ち、次世代育ちというところから考えると、家庭だけではないと思うので、ここに家庭、地域社会、学校という形で検討していただくと良いと思う。

→同様に検討させていただく。

・P51 四葉のクローバーはとても良いアイデアで、こういう形ならば問題は解消されたと思う。

・P52 概念図が不要だと思う。無理して図にするのではなく、言葉だけでわかると思う。私の理解不足かもしれないが、例えば妊娠期、育児期、熟年期のところを地域育ちで地域

に当てはまるとか、ここら辺がよくわからないが。例えば乳幼児でも、小学生でも地域で育っていると思うので、地域育ちは全般のことなので、なぜこの大きさになっているのか理解できない。

・子育ては子どもが中心であり、それをデフォルメしたのかなと思う。地域育ちというのは、地域そのものが育つという由来がある。熟年になり一番余裕が出てくる。地域に関わって地域を豊かなものにしていくということだと考える。必要なのではないかという考えもあるよう。

・地域のお父さんサッカーで校庭を使っているが、親がすごく、夏合宿をしたり、スイカの差し入れがあったり、賞状を持ってきたりする。スポーツばかりでなく、実践女子大の教育実習生が、体育館で一輪車のチームに入っている。夕方本校の体育館を使っている。夏の世界大会に優勝した。5人くらい仲間がいて、2月に披露してもらう。その子が七小卒業だ。帰ってきている。そういう風になって、また子育てをする。良い地域だ。

・今小学校で一個サッカーチームがあり、男子生徒の3分の1はサッカーをしている。1年生から6年生、女子もおおり、だいたい小学生でサッカーをしているのは、2,000人くらいいる。親も夫婦でくるから3,000人くらい。サッカーをしている親父は、子どもが卒業しても他へ移らない。自分の子どもにサッカーを教えたい。生徒の親は2,000人くらい。卒業した関係者が3分の1くらい残る。それが親世代に入ってくる。結局今還暦のチームがある。昔小学校に子どもがいて、サッカーをやっていた。それが還暦になってまだサッカーをやっている。親子でサッカーを始めて、なおかつ子どもは社会人になってどっかに行ってしまったけれど、親父は残っているというのはある。だから親権者の親なのかと先ほど言っていたが、指導する親父は自分の孫だと思って指導しているし、その子どもの親も指導している。だからこういうのがわかりやすいというのは事実。

・私もサッカーをやっているが、サッカーに限らずとも、野球やサッカーのいろんなチームの中で、子どものことを中心として親御さん方でコミュニティができている。学校教育基本構想を策定したが、その中で学校は本当に地域に支えられているとわかる。学校があって地域がある。

・そのような関わりの中で、親御さん同士の地域社会が崩れている云々というのは、かつてであれば住まいと食事が一体であった。なかなかそういう機会がない。子育てを通じながら、地域社会が復興していくというか、蘇生するというイメージをしている。時間的余裕が出て来れば可能なので、子育てを通じながら、お母さんたちが連帯感を持ち、お互いに支えながら、いきいきとした地域づくりをしていきたい。

・私は野球派であるが、私も子どもの野球に親子で関わっていて、地域の私より目上の人が出て、私も怒られたことがある。親子の関係で、それはここがダメだということを言われた。私も次の世代にいうことになる。地域の人には子どもを見てもらうと同時に、親子とセットでこうなのだと教えて貰った。もう一つ〇〇委員から日野の強みってなんですかという質問があった。正月に市長から日野の強み、宝を本気で探そうよという話があった。見えてないものが相当あって、地域懇談会でまち歩きをしたが、今まで知らなかったもの

<p>がいっぱいある。そういうものをこれから見つけて行って、地域に密接しながら見ていきたい。田舎だからダメな部分があるが、アンケートを見るとお父さんやお母さんは伸び伸び育てられる場所を住まいにしたいという方も多い。</p>	
<p>・日野の強みとなると、教え子でも日野市に入った職員がいた。本人は地元に戻って欲しいと考えられていたが、日野市でボランティアをやっていて、いろいろサポートしてあげた。学生でも資格を取るような学生は、かえってこのくらい緑があるところの方が良いという人もいる。六本木が良いという人もいるが、いろいろいて一概に言えないが、子育てに関しては、予算的にも市政から投資している。良いところと捉えられると認識した。いろいろ探せばいっぱいあるので、そういうところを市政の中で提案してもらったほうがわかる。子育てに関しては、転居してきた方も子どもを通じて地域に溶け込むという側面もある。そんなふうを考えていくと、国政でも地方創生をやっているが、日野市でそういう意義をだんだん作っていく。</p>	
<p>・日野の良いところでお話を伺って、私の思ったところがある。日野市に引っ越す前には、野鳥はスズメやカラスしかいなかったが、引っ越してきたら、浅川に行けば子どもの背丈の鳥がたくさんいたり、小学校の授業でも浅川に探検にいたり、身近に魚とかがいっぱいいる環境は子どもが育つので良い。丘陵地帯なので、緑は豊かな反面、坂が多く生活しづらかったり、子どもの自転車での安全など、地域の安全を厚くしていきたい。子ども一人を自転車に乗せることも怖いことがある。昔から住んでいる人は高齢の方ばかりで、自治会でも防災訓練をどうするかなど、そういう話も毎年上がってくる。それに関連して、P52の概念図は、さっきの話を伺っていて、地域育ちと付いているところを見ると、熟年期、育児期、妊娠期がターゲットで、子どもがあまり関係ないのかと見えてしまいがち。そうでなくて、意図としては子どもも地域の仲間であるし、横軸というのも社会的な広がりとなっているので、全体を対象にしていると思う。もし図を変えたとしたら、左下から順番に階段のように、子育てを包むように大きな世代育ちがあり、それを包むように親育ち、その3つを包むように地域育ちの箱があると、ターゲットが広がっているとわかる。</p>	
<p>・各事業の詳しい説明について、ひのっちで平成27年度から4校で夏休みに開催するとあるが、具体的に時間や日程、対象の学校について決まっているのであれば伺いたい。</p>	
<p>→具体的に細かいところは、これから調整する段階で、具体的に決まっていない。4校で行う。</p>	
会長	パブリックコメントの件にうつる。事務局より説明。
事務局	<p>・今までお伝えしたものをもとに説明会を2回行った。出席人数は13名いた。説明会での質問は、保育事業について潜在的なニーズが入っているのか、放課後について学童クラブ、ひのっち、児童館の役割が変わるのかという意見をいただいた。</p> <p>・パブリックコメントについては、1月1日から23日までパブリックコメントを実施した。広報ひの、ホームページ、あとは関係各所に素案を設置した。意見については175人からいただいている。件数としては、300件程度である。</p>

	<p>・素案の第5章の個別施策の展開の中の、保育園の関係、学童クラブの関係、多様な保育の場づくり、遊び場の充実という意見を含めて多岐にわたっている。ご自宅にお持ち帰りいただいて、ご覧いただければと思う。最終的に市の考え方、プランへの反映について、次回の会議でご提示させていただく。</p>
<p>委員の主な質問・ご意見等</p>	
<p>・概ねの印象や感じたことをご披露いただければと思う。</p>	
<p>→素案の P58 から P62 の多様な保育の場づくり、質の向上というところで、保育園の部分、民営化の部分を含めてご意見をいただいた。また、学童クラブの入所の関係についてのご意見もいただいた。あと多かったのが、P88 の遊び場の充実という部分の意見も多かったと感じている。</p>	
<p>・P89 の地域の遊び場、公園、児童遊園等について。スポーツ公園のところに公園があり、昔はロープのタワーがあったが、あれは危険度の問題や耐用年数で取り払われたと思っている。この間ふと気がついたら公園の中にバネで動くものや小さな滑り台もすべて撤去されているみたいなのだが、危険度が増したから撤去されたのか。子どもが小さい時によく利用していた。あとは施設の隣に水が出ていたものが今は何年も止まっている。あの公園は日陰がなく、水も子どもが喜んでいただけなのだが、水路や何かが日野市にはたくさんあるが、そういうのを引いてきて浄化させたりというのは難しいのか。</p>	
<p>→陸上競技場に流れている水は、再生水でありトイレに流れている水と同じ。それを子どもが遊んでいたため止めた。</p>	
<p>・O157 か何かがあったときにピタッと止まった。それは浄化ができないのかと理解はしている。せっかく作ったものは何か活用できないか。遊具はどうして撤去になったのか。関係ないかもしれないが聞きしたい。</p>	
<p>→老朽化かと思う。改めて作る事も出来ず、そのまま置いておくと危険というのがあったり、水については汚いというのがあったり。</p>	
<p>・遊び場のことである。世代とともに遊具や公園に集う子どもからおじいちゃんまで共存しあって使える場所という考えが足りない。土日や休みの日に公園で遊べないとか、浅川グラウンドによく行くが、そこに遊具があるわけでないの、自然に触れ合うという感じである。ボールでもっと元気に遊べたりするところがあれば良い。パブリックコメントの意見を見ても思ったが、仲田の森の駐車場問題は大きい。どうしても近隣の人は、親が休みの時は下の子も連れて行こうとなった時に、あの距離だと車で行きたい。そのとき何時間も遊ぶとお金結構かかる。仲田の森で遊ぶなら、割引制度とかコイン制とかあっても良いと思う。職場が栄町の方なので、良く行くので確かに家族連れが多いので、ご意見としては、確かに月に 4,500 円の出費は大きいと思ってしまった。当事者じゃないとわからない意見なので、こういうのを大事にしたいと思った。</p>	
<p>・児童館がたくさんあったり、地域センターがあったりというのが当然だと思っていたが、大阪から来た友達は、日野市がとても恵まれていると言っていた。日野市は子育てしやすいまちだというのが感想である。あとは、基本理念の四葉のクローバーとか、親育ち、子</p>	

育ち、地域育ち、次世代育ち、この四葉のクローバーの絵が可愛らしいところで、字が苦手な人でもちょっと読んでみようという意欲が湧いて良い。仲田の森は聞いたことあるが、実際行ったことはない。子育てで熱心な方は、自然で育てるというのを基本にしていて、仲田の森にも行かれる。

・働いていて子どもと過ごす時間は夜だったり、土日だったり、地域のことに触れる時間も限られている。子どもが通っている学校だったり、児童館だったり、こういうことに参加させていただいて、いろんな事業があることを初めて知った。それと同時に働いていたりだとか事情があったりして、身の回りがどのようなことで、どのような事業が行われているかを意識しないと知ることができない。

・今回すすくすくプランやパブリックコメントは関係するところに知らせたが、ホームページからダウンロードするのもすごい量で、ここに行けば見られますというのはあるが、もらえるわけではない。知らないという方も沢山いる。自分だったり、子どもに関わることがたくさん載っているので、どうたくさんの人に知ってもらい、みんなの意見を伝えることができるのかというのを考えていた。井戸端会議で話すようなことを、お互いに知り、いろんな人に見てもらおうようにしたいと感じた。

・前回私が要望して、9月の議会を通った条例について郵送で送っていただいた。条例に具体的な面積や数値や最低基準が明記されていないのは日野市だけである。他の市では何平米とか、何人とか基準があって、それが市の議会を通して作られているが、日野市は規則に定めるとあって、すすくすくプランでは、学童クラブへの民間活力の導入を含めとあるが、学童クラブは上の子もお世話になって、下の子ももう終わるが、この良さを少なからずある。もし民間が参入した場合に、軸となる条例が具体的な数値がない中で、規則をどこまで遵守してもらえるかとても気になっているので、必要に応じて見直しを図ってほしい。

→条例の件。今回学童クラブでも条例であるような形でご議会にご審議いただいている。新制度の仕組み自体が介護保険の仕組みと同じである。そちらも詳しい部分は条例に基づくとなっていて、同様の仕組みからそのような見解となっている。

・子ども会で会長をしていて、30家庭で40人くらい子どもたちが活動している。神輿の団体の方々と共催して盆踊り大会と神輿を担いだり、どんと焼きに子ども会として参加させていただいて、地域の行事に子ども会として参加させていただいた。それまでは地域との関わりはなかったが、そういう貴重な経験ができて良い。やはり子ども会の役員の負担が大きいので、親が大変という情報が回り、なかなか家庭数が増えない。どうして増やしていくかが子ども会の問題。土日だと男の子はサッカー、野球があり、なかなか出られない。地域の子どもの顔も見れるし、そこに住んでいる人の顔が見えるようになり、すごい良い経験だと思う。どこも減っていると聞くので、何か市にお手伝いをしていただきたい。

・3章、4章の部分で文言など話し合ってきた。今回見やすく、我々がいったところもまとめてくださっていて良かった。3章、4章の部分が、文言が並んでいるからこそ、どうやっていくかが第5章になっていくと思う。私たちが議論する時間はあまりなかった。本

来はこっちにもっと時間をかけてやっていきたくかった。このプランを考えた委員の一人である以上、今後のことについては、アンテナを張り巡らせて、追求していきたい。

・私たちが討議をしたことは、理念や目標だけで、時間が取られてしまった。意見を出し切れずにいたという反省もある。私の拙い意見をうまく取り入れていただき、感謝をしている。パブコメをみても、市民の皆さんが関心を持っているのは基本理念というより、個別の課題である。5章の個別政策についてのパブコメが一番多かった。こここのところを一生懸命ご意見、希望をチェックしながらいいものを作っていくと期待している。私の子どもは一人娘だが、成人式を迎え大人なので、子育てをした経験が昔のように感じるが、パブリックコメントを見ると子育てをしている人はいろんな意見を持っているとわかった。

・パブリックコメントにあるが、一時保育の申し込みをしたが、予約が2ヶ月先までいっぱいとなっていて、緊急の時に安心してお預けできるようにできないのか。お母様方によっては、保育のショートステイとか一時保育、ファミサポとか、そういう状況を知らない方がいるみたいなので、こういうのを一般の方にも利用しやすい形に持っていくことが大切である。とても良い勉強をさせていただいた。

・私は小さな保育園で0歳児から5歳児まで預かっていて、子どもたちの支援に携わらせていただき、ありがたい。遊具の話があったが、私たちの近くの公園に砂場があるが、砂が全然なくなってしまった。砂を入れていただくか、砂場に猫たちが来るので、遊び終わったら何か掛けられるとか砂場があるならもう少し普及して欲しい。

・我々が出した意見をプランに反映していただき、大変な作業だったと思う。ありがとう。パブコメについても、遊び場の充実に高い関心があるので、ますます行政と連携を強め、NPOでやっているのでも、市民の力でより充実することが大事だと思った。駐車場の件、参加者の方々から切実な声が多くあるという実情がある。意見番号48番にあったが、広報で載ってないという声があり、残念だったと思いながら、活動を頑張っていく。今後のプランの実行に興味がある。杉並区には子ども子育て支援会議の区民版があり、区民が自主的に勉強していき、だんだん行政とコラボできた。井戸端会議の集まりからうまく行政に意見を吸い取られた。このような会議は、こういう形をとらなければならないのか。ざっくばらんに話すというのは難しい。2020 プランの会議では、小さいグループに分かれ、意見を吸い上げていく。このプランがどう実行されているか。その中で市民の声がどう反映されているかというのがわかるので、ぜひ取り入れていただきたい。

・どう実行されているか。今日明日と学校公開、6年生がP90のガン教育に取り組んでおり、ガンにはどうしてなるのかを知るために、ICTから中央図書館まで全部利用している。現場を使っている。電話するとすぐに図書館から本を持ってくる。ICTも発表の時にすぐ来る。行政の支援を保護者、地域の皆さんの協力のおかげで学校はなりたっている。

・行政の方の一員として、実際に絵に書いていて、責任を感じる。市民の力、地域の力を交えて一緒にやっていきたい。パブリックコメントにあった遊び場について、実際公園に行くとサッカー禁止、キャッチボール禁止があり、学校でも企業団体がやっていたりして、自分が子どもの頃に比べるとキャッチボールが気軽にできないとかがある。特に投げると

いうことの力が低下していて、その辺は個人的にはなんとかしたい。なかなかハードルは高いので、その辺を踏まえて皆さんの力を借りてやっていきたい。

・これだけのパブリックコメントが寄せられたことは驚きである。それだけ子育てへの関心が高い。市の考え方というところはこれからだが、事務局で精査した中で、どう反映させるかという難しいところはあるが、しっかりと返していきたい。地域育ちなどあるが、健康福祉部では3つの基本についてご指導させていただいている。その中では地域福祉計画を作っていて、これからの福祉を支えるのは地域だと捉え、地域づくりを進めている。子育て、高齢、災害、いろんなことを地域で支えていきたい。冊子の各ページの上に、何章の何番かと書いてあることが、良いと思う。全体の位置付けがわかり、良い冊子だてになっている。

・素案の段階だが結構作り込めたと思う。介護保険が条例の話であったが、この制度自体が介護保険にならっていて、数量を書き込むということが新しい準備だと思う。当然量の確保だけでなく、質が大事だと冒頭であり、それが大事だと思う。この計画は作って終わりではなく、その後の進捗状況についてもしっかりと語っていきたい。私としては、もう少し語りたかったのは、子育ての影の部分、虐待だとか、そういう部分も考えたい。引き続きお願いしたい。

・私も色々申したが、簡単に触れとけば、多岐多様に渡る中を、他の部局に関連する話をしなければならぬ。これを作るには実現可能であることではないと、書き込めないというのは行政主体の責任である。絵に描いた餅を書くのは簡単だがそれはしていない。実際に実行してうまくいかかわからないケースがある。そのときにやはり、こういう会議で、システム、やり方というのは、審議会的なレベルである。それでも各領域に詳しい方がきていただかないとまとまりがつかない。自由に募ってというまとまりがつかない。そういう会は各団体の活動などでコミュニケーションをとってやってほしい。市の方もそれなりにやっているが、そういう面ではまだまだ、関心のある方は限られるので、必要性があれば、井戸端会議というところから作っていけばいい。その中で地域に連帯があるので、そこから作っていく。私たちは多少持っている知見の中で、市の方が専門家として作っていただいていることについて、こうじゃないと言える会議である。検討したり、活かしたりというのがあるので、形式的にやっているのではない。直したりするのも大変な作業である。これを実現するという問題はともかく、審議という形ができれば、予算をとって、やっていきたい。そういうことをしていく中で、市政と住民でやっていきたい。今日はこういうことをご意見をいただいた。次回大変だと思うが、1ヶ月ちょっとになる。その他で検討いただきたい。

事務局	今ご意見をいただいた、パブリックコメントについては、各部署へ確認し、反映していく。次回の支援会議で最終版をご覧ください。次回の日程は、2月の26日の木曜日の18時30分からになる。
-----	--